

高知工業高等専門学校	開講年度	令和04年度 (2022年度)	授業科目	中国語
科目基礎情報				
科目番号	B5003	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	SD 基礎教育・一般科目	対象学年	5	
開設期	通年	週時間数	2	
教科書/教材	『ともだち・朋友 スリム版①』董燕・遠藤光暁著 (朝日出版社) プロログA～第10課『ともだち・朋友 スリム版②』董燕・遠藤光暁著 (朝日出版社) 第11課～第21課			
担当教員	河岡 うさぎ			
到達目標				
地球上で一番多くの人に話されている言語「中国語」の初級を学びます。中国語の日常会話の基礎は初級ですから、授業で学んだことを覚えておくと、将来仕事やプライベートで使えるでしょう。卒業後も自力で学び続けていけるように、しっかりとした土台を築きましょう。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	1つの文章を正しく発音することができる。	1つ1つの単語を正しく発音することができる。	発音が不正確であり、相手が聞き取ることができない。	
評価項目2	1つの文章を正しく日本語に訳することができる。	単語の意味を正しく訳することができる。	単語の意味を理解できない。	
評価項目3	簡単な文章を聞いて全文を理解することができる。	簡単な文章を聞いて一部の単語を聞き取ることができる。	単語をほとんど聞き取ることができない。	
学科の到達目標項目との関係				
(D) 基準1(2)の知識・能力 基準1(2)(f)				
教育方法等				
概要	この授業では、読んだり、聞いたり、書いたり、発音したりすることで、中国語という言語を体験していきます。中国語は、日本語と同じ漢字文化圏の言語ですが、外国の言葉ですので、発音や文字や意味がかなり違います。その点を意識しながら学習してください。教科書付属のDVD教材は、教科書本文をセリフにしたドラマが収録されていますので、繰り返し視聴することで、学習した内容が忘れにくくなります。DVDには文法解説の一部や、ネイティブスピーカーの発音のお手本も収録されています。教科書には他にCD教材も付属しています。きれいな発音をいつでも聞くことができます。DVDやCDを自宅等で利用できるように環境を整えてください。			
授業の進め方・方法	授業は教科書を中心に進めていきます。必ず予習と復習をしてください。新しい単語やローマ字表記は、手書きして覚えてください。辞書や参考書は授業では使いません(授業をしばらく受けてみて必要だと感じた方は、購入を検討してください)。授業は、少し進むごとに、発音練習をします。これは知識と音と文字の形を脳内で結びつける、大事な、大事な作業です。受講生は積極的に発音練習に参加してください。発音練習は大きな声で、解説は静かに聴いてください。要点はノートや教科書にどんどん書き込んでください。			
注意点	試験が70%、普段の授業態度(提出物の提出具合を含みます)を30%で評価します。			
授業の属性・履修上の区分				
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	授業について 学習について 中国語の基礎知識
		2週	プロログA	発音の基本①
		3週	プロログA	発音の基本②
		4週	プロログB	発音の基本③
		5週	プロログB	発音の基本④ 数字 数詞述語文 疑問文①
		6週	プロログC	発音の基本⑤
		7週	プロログC	発音の基本⑥ 人称代名詞 主語+動詞+目的語 よく使う助詞
		8週	プロログD	発音の基本⑦ 名前の聞き方・答え方
	2ndQ	9週	第1課	指示代名詞 形容詞述語文 疑問文②③ 否定の副詞「不」「不」の変調
		10週	第2課	正反疑問文 選択疑問文 「的」が省略できる場合 動詞句+「的」→名詞句
		11週	第3課	親族呼称 「ふたつ」の言い方 「有」と「没有」年齢の聞き方 「一」の変調 21から99までの「十」の発音
		12週	第4課	「～したいと思う」日付と曜日 動詞の重ね型 「誰々に～してあげる」積極的な気持ちを表す「来」
		13週	第5課	月の言い方 時刻の言い方
		14週	第6課	お金の言い方 100以上の数 数量補語 アール化
		15週	前学期末試験	プロログA～第3課の内容に関して出題する予定
		16週	第7課	動詞「在」 助動詞「要」 どこどこから
後期	3rdQ	1週	第8課	前置詞「在」「できる」の助動詞① 二重目的語 「ちょっと多めに～する」
		2週	第9課	「できる」の助動詞② 連動文 禁止の表現
		3週	第10課	「できる」の助動詞③ 比較の言い方
		4週	第11課	動作の完了
		5週	第12課	変化を表す「了」 経験の言い方 「少しも～ない」
		6週	第13課	進行中の動作 過去のことでも「了」がつかないとき

4thQ	7週	第 14 課	結果補語 程度補語 「もう～しないで」
	8週	第 15 課	持続の表現 存現文 「～であり～である」
	9週	後学期中間試験	プロローグA～第10課の内容から出題する予定
	10週	第 16 課	一致と類似 「是～的」構文 「きっと～に違いない」 「なんと～だったのか」
	11週	第 17 課	方向動詞 方向補語 「～を～する」 「～しなければならない」
	12週	第 18 課	可能補語 「～だけれど、でも～」
	13週	第 19 課	様態補語
	14週	第 20 課	受け身 「再」と「又」
	15週	第 21 課	使役 「～しましょう」 同一の疑問詞の呼応 疑問詞+「都」
	16週	卒業試験	第11課～第21課の内容から出題する予定

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	30	0	0	100
基礎的能力	70	0	0	30	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0